

日文研究室だより

今年度のはじまりにあたって

二〇〇三年度

会長 真下 厚

文学部では教学改革の一環として、今年度からテーマ・リサーチゼミナールという制度を発足させた。これは、文学部の学生が自分の所属する専攻・インスティテュートと関わりなく、いくつかのテーマを立てたゼミを受講し、そこで卒業論文や卒業研究を完成させて卒業するというものである。私も中本大先生とともに「京都から発信する」というゼミを担当することとなった。昨年十二月、新三回生を対象としてゼミ選択のために説明会が開かれた。今年度開講された七つのテーマ・リサーチゼミの説明会では、二五〇名程度の中教室に立ち見が出るほどの熱気に満ちたものとなった。新しいかたちでのゼミに対する期待の大きさをうれしく思う一方、既存の教学に対する飽き足りなさを感じる学生の多さ

を考えて、何とも複雑な気分であった。中本先生と私が担当するゼミは四十九名という多数の第一志望者から十九名の受講者を決定することとなった。

さて、日本文学専攻では今年度から三回生の受講するゼミ科目をすべての時代・分野で開講することとなった。ところが、こちらの方は上代から近世までの各時代・日本語学の受講生は各クラスとも十名以下という結果であった。近・現代分野に集中したのである。これにはいろんな事情がある。が、私自身は担当分野の意義や魅力について十分に説き得ていないのだと反省した。

こうした傾向とも関わることであるが、日本文学専攻では二〇〇四年度より専攻教学の改革をはかろうとしている。その主眼とするところは、社会・文化の重視と実践化という点にある。これまでのテキスト研究に加えて、文学が生成されてくる基盤としての社会や文化の問題にも広げ、テキストとの関係について有機

的に思考する能力を専門教育において育成してゆきたいと考えている。学生諸君には、視野を広げながら、テキストにこだわってその読みをさらに深めてもらいたいのである。

また大学院教学では、韓国釜山の東西大学校大学院日本地域専攻との間で協定が結ばれ、相互履修が行われることとなった。日本文学研究の視野を広げる一助になるよう、願っている。

こうしたことを通して、学部・大学院の学生諸君が意欲と積極性を高めていってほしい。

卒業生諸氏のご協力を切にお願い申し上げます。次第である。